

○高橋絵里香、高橋和雄

(和洋女大文家政)

序論 これまで被服製作の指導方法改善のため、機材のコンピュータ化、タイトスカートおよび上衣の肩部を対象とした体型・サイズ毎に行う補正の方法と程度のデータベース化、およびメモリー上の仮想画面に描いた型紙のシリアルプリンタ転送方法などを報告してきた^{1) 2)}。

ここでは、CADシステムでの入力に対して疑似ディジタイザーを考えてみた。

方法 CADシステムにおける実寸型紙のディジタイザーからの取り込みの場合、大型ディジタイザーの設置および人手によるポイント指示などの面でコンパクト化・低廉化・簡略化が求められる。また、機能面でも直線と曲線の接続不整合などの問題が残されている。そこで、①色づけした型紙をスキャナーまたは電子スチルカメラにより読み込み、ビットマップファイルとする。スキャナーの場合、大きい型紙は分割して取り込み、ペイントブラシあるいはプログラムにより接合しておく。電子スチルカメラの場合は、パソコン接続ソフトによりRS-232Cポートから取り込む。②Windows版VisualBasicによるプログラムでFormオブジェクト上に型紙ファイルを展開する。③Form上のピクセル毎にPoint(x,y) 関数により左右、上下へと順次走査する。④直線あるいは曲線かの判定は、ディジタイザーと同様にマウスによる直接指示とプログラムにより曲率半径の逐次計算から行う方法が考えられる。直線と曲線との接続は、滑らかとなるようにした。機材は、IBM PC/AT互換機(Video Ram:2MB)、スキャナーEPSON GT-8500WIN、電子カメラOLYMPUS CAMEDIA C-800LおよびWindows版VisualBasicによる自作プログラムを用いた。

結果 従来までの立位での作業をコンパクトなデスクワークとし、経費節減が試みられた。

1) 高橋ほか;家政学会第44,46,47,48回大会要旨集. 2) 高橋ほか;和洋女子大学紀要第37集(家政系編),p.1